

大阪公立大学医学部附属病院職員休職規程

制 定 平成 31. 4. 1 規程 137
最近改正 令和 4. 3. 31 規程 478

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大阪公立大学医学部附属病院職員就業規則(以下「就業規則」という。)第 19 条第 3 項の規定に基づき、公立大学法人大阪(以下「法人」という。)に雇用される職員(就業規則第 2 条に規定する職員をいう。以下同じ。)の休職に関し必要な事項を定めるものとする。

(休職の効果)

第 2 条 休職中の職員は、職員としての身分は保有するが、職務には従事しない。
2 休職中の職員は、休職の期間中、大阪公立大学医学部附属病院管理職員給与規程及び大阪公立大学医学部附属病院職員給与規程に定めるものを除き、いかなる給与も支給されない。

(就業規則等の遵守)

第 3 条 職員は、休職の期間中であっても、職務に従事しないほかは、就業規則及び法人の諸規程を遵守しなければならない。

(休職の期間等)

第 4 条 就業規則第 19 条第 1 項各号(第 2 号を除く。)に規定する休職の期間は、当該休職をした日から引き続き 3 年を超えない範囲内でこれを更新することができる。
2 就業規則第 19 条第 1 項第 1 号に規定する休職(以下「病気休職」という。)については、同一の休職事由に該当する状態が存続する限り、その原因である疾病の種類、従事する職務内容等が異なることとなった場合においても、引き続き 3 年を超えることができない。
3 就業規則第 19 条第 1 項第 1 号の規定に該当するものとして休職にした職員で既に復職をしているものにつき、再び同号の規定に該当するものとしてこれを休職にするときは、その再度の休職の期間については、当該復職前の休職の期間を更新するものとして、前項の規定を適用する。この場合において、これらの休職の期間は、当該復職前の休職にした日(当該復職前の休職の期間が前項又はこの項の規定により更新したものである場合にあっては、その最初の更新前の休職にした日)から引き続いているものとみなす。
4 次の各号のいずれかに該当するときは、前項に規定する職員に係る再度の休職の期間については、同項の規定を適用しない。
(1) その者の復職の日から起算して 1 年を経過した場合
(2) その者の復職前の休職の事由とした心身の故障と明らかに異なる心身の故障により再び休職にする場合
(3) 前 2 号に掲げるもののほか、法人が特に必要と認める場合

(休職の手続)

- 第5条 法人は、職員の意に反して当該職員を休職(就業規則第19条第1項第6号に該当する休職を除く。)にすることができる。
- 2 法人は、前項の規定により職員を休職にする場合には、その理由を記載した文書を交付して行う。
- 3 前項の文書の交付を受けるべき職員の所在を知ることができない場合については、大阪公立大学医学部附属病院職員懲戒規程第3条第4項の規定例により、当該交付を行うものとする。

附 則

この規程は、令和元年11月1日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則 (令和4.3.31 規程478)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。